2014年北海道大學台灣原住民族國際學術研討會

2014年北海道大学台湾原住民族国際シンポジウム

2014 Hokkaido University Symposium on Taiwanese Aborigines: A University's Contributions to the Development of Aboriginal Communities

文・圖｜黃季平（政治大學民族學系副教授）　日語翻譯｜石村明子

2014年10月24至28日，由北海道大學愛努・先住民研究中心在札幌與平取町分別舉辦「台灣原住民族の現在」（現今的台灣原住民族）國際學術研討會與「地域における先住民族文化振興の現狀と展望」（關於地方原住民族文化振興的現狀與展望）特別講座。兩場會議吸引多人參加，跟原住民族研究中心相熟的原英子教授特地從岩手縣搭機與會。NHK電台則派出記者採訪兩天，及時播報。

原民會林江義主委為最大亮點

政大原住民族研究中心與北海道大學愛努・先住民研究中心是在2007年結為姊妹中心，互動往來已有7年。當我們知道北海道未來有可能設立「民族共生的象徵空間」時，政大就推薦當時的台灣原住民族文化園區局長鍾興華參與愛努暨先住民研究中心在2012年舉辦的國際研討會，2013年政大再邀請北海道大學率領愛努民族前往園區參訪，兩邊互相借鏡也建立深厚的友誼。

2014年10月24～28日、北海道大学アイヌ・先住民研究センターによる国際シンポジウム「台湾原住民族の現在」が札幌で、特別講座「地域における先住民族文化振興の現状と展望」が平取町でそれぞれ開催された。両方とも来場者が多く、政治大学原住民族研究センターと交流のある原英子先生も岩手県からわざわざ飛行機で駆けつけてくださった。また2日間ともNHKの取材を受け、即日報道された。

ハイライトは原住民族委員会の林江義主任委員

政治大学原住民族研究センターと北大アイヌ・先住民研究センターは2007年に姉妹センターとして提携し、この7年間交流を進めてきた。北海道での「民族共生の象徴空間」創設予定に関連して、2012年にアイヌ・先住民研究センターによって国際シンポジウムが開催され、政治大学は台湾原住民族分化園区の鍾興華局長（当時）を講演者に推薦した。また、2013年には北大とアイヌの人々を文化園区にお招きし、双方の事例を参考にしつつ交流を深めた。

今年（2014年）は、政治大学原住民族研究

政大原住民族研究中心

台灣團隊與愛努．先住民研究中心主任常本照樹教授（右四）一起在北海道大學校門口與會議宣傳看板留影。

今年（2014）在該中心舉辦的國際研討會，受邀參加的3位成員是政大原民中心的林修澈主任、黃季平教授及原民會林江義主委。政大原民中心主任林修澈報告「台灣原住民族的回復傳統名字登記」，黃季平報告「台灣新認定的兩個民族」，這兩項議題都是今年度台灣原住民族最新的研究成果，提供與會者瞭解台灣最新的原住民族研究動態。今年的特點是政大推薦常本照樹主任邀請原住民族委員會林江義主委參加，林主委雖然公務繁忙，但很爽快同意，主講「台灣原住民族的現況與發展」，林主委深入淺出地描述台灣原住民族這20年來的政策發展與現況，演講內容相當精彩，有了這位台灣原住民族最高行政首長的參與，是這次研討會的最大亮點，當天現場的反應也相當熱烈。

參訪無形民俗文化與博物館

另外，愛努．先住民研究中心也邀請台灣原住民族文化園區與原住民族地方文物館一行6人參與這次研討會。文化園區的

センターの林修澈センター長、黄季平副教授、林江義原住民族委員会主任委員（原住民族省大臣）がアイヌ・先住民研究センターの国際シンポジウムに招かれ、政治大センターの林修澈センター長は「台湾原住民族の伝統名回復と登記」、黄季平副教授は「台湾で新たに認定された二つの民族」というテーマで報告を行った。これらの報告内容は台湾原住民族に関わる今年度の最新の研究成果であり、台湾の原住民族研究の最新動向を来場者に伝えた。また、今年の特色としては、政治大学では北大の常本照樹センター長に参加者として原住民族委員会の林江義委員長を推薦したことである。林委員長からは公務が多忙なのにもかかわらず即座に承諾の返事をいただくことができ、メイン講演として「台湾原住民族政策の現状」というテーマで、ここ20年来の台湾原住民族政策の発展と現状を深く、そして分かりやすく述べていただいた。台湾原住民族の最高行政長官が出席して素晴らしい講演を行ったことは、今回のシンポジウムのハイライトでもあり、来場者が熱心に質問するなどの姿も見られた。

政大原住民族研究中心

第一天會議結束後，台灣團隊與愛努．先住民研究中心的研究人員及行政人員合影留念。常本教授放在頭上的東西，是去年從屏東文化園區五年祭活動中搶到的幸運球。

王惠玲局長講述園區的現況與發展，蔡宜靜專員討論文化園區與地方文物館之間的關係。藍旻瑩主祕（高雄市政府原住民事務委員會）、吳明季館長與謝玉忠規劃員（花蓮縣瑞穗鄉奇美文物館）、何鳳美規劃員（屏東縣獅子鄉文物陳列館）的報告，提供實際的工作經驗，討論地方文物館如何結合地方資源，保存民族文化，走出經營困境。

研討會議之外，第一天由北海道大學三上隆副校長親自接待我們，也與愛努總和政策室的對馬一修分室長見面。第二天，我們前往平取町二風谷，這裡是北海道愛努民族最密集的聚居地，當天的參訪行程與研討會都由去年來過台灣的吉原秀喜課長細心安排。接待者還有平取町愛努協會支部長木村英彥，也是去年的舊識。晚上在愛努協會的懇親會上，平取愛努文化保存會會長貝澤耕一率領舞團以傳統舞蹈迎接，引人動容，這些舞蹈也已經被指定為重要無形民俗文化財。最後一天我們參觀白老町的博物館，這是目前最具規模

無形民俗文化と博物館を訪ねて

さらに、アイヌ・先住民研究センターでは、当シンポジウム開催にあたって台湾原住民族文化園区および原住民集落にある地方文化館の一行6名も招待した。文化園区の王慧玲局長は文化園区の現状と発展について、同園区のコーディネーター蔡宜静氏は文化園区と地方文化館の関係についてそれぞれ述べた。また、藍旻瑩主任秘書（高雄市政府原住民事務委員会）、呉明季館長と謝玉忠企画員（花蓮県瑞穂郷奇美文物館）、何鳳美企画員（屏東県獅子郷文物陳列館）は実際の業務経験に基づき、地方文化館と地域の文化資源をいかに結びつけて民族文化を保持し、経営危機を乗り切ったかについて言及した。

シンポジウム以外では、1日目に北大の三上隆副学長とアイヌ総合政策室の対馬一修分室長を訪問し、3日目は北海道でアイヌの人々が最も集住している平取町二風谷を訪れた。当日の行程とシンポジウムは去年台湾にいらした吉原秀喜課長がアレンジしてくださり、やはり去年台湾にいらした平取アイヌ協会の木村英彦支

政大原住民族研究中心

平取町二風谷通往資料館的入口意象。

白老博物館內宗教製作品的展示空間。

白老博物館以生動的舞蹈表演呈現愛努族文化。

的愛努族博物館，未來也將擴大為「民族共生的象徵空間」的地點。去年參訪台灣後不久過勞去世的山丸郁夫便是白老博物館的重要人物，不禁感慨。

感謝愛努・先住民研究中心用心規劃

愛努・先住民研究中心用心籌備此次的會議，常本照樹主任動員全中心的研究人員與行政人員參與，包括佐佐木利和、落合研一、山崎幸治、北原次郎太、丹菊逸治教授等等，讓參與者都能感受到他們的熱情，也讓這次會議活動畫下圓滿的句點。◆

本次活動在中國時報11月5-6日兩日均有報導，但與事實不符，可以對照參考。

部長にもお世話になった。夜はアイヌ協会による懇親会で、貝澤耕一会長率いる平取アイヌ文化保存会の皆さんに重要無形民俗文化財でもある感動的な古式舞踊を見せていただいた。そして4日目は白老町のアイヌ民族博物館を視察した。当館は現時点で最大規模のアイヌの博物館であり、この近辺は「民族共生の象徴空間」の設立予定地でもある。また、この博物館の重要人物で、去年の訪台後に間もなく亡くなられた山丸郁夫氏を思い出し、切なくなった。

アイヌ・先住民センターの細かな配慮に感謝

最後に、アイヌ・先住民センターでは常本照樹センター長をはじめ、佐々木利和先生、落合研一先生、山崎幸治先生、北原次郎太先生、丹菊逸治先生などセンターの先生方と職員の方々が、総動員で今回のシンポジウムに際して周到な準備をしてくださっていたことに触れたい。皆さんの熱意が我々参加者にも伝わり、そのおかげもありシンポジウムは無事に終了したのであった。

政大原住民族研究中心